

平成 28年度

全国学力・学習状況調査 指宿市結果報告

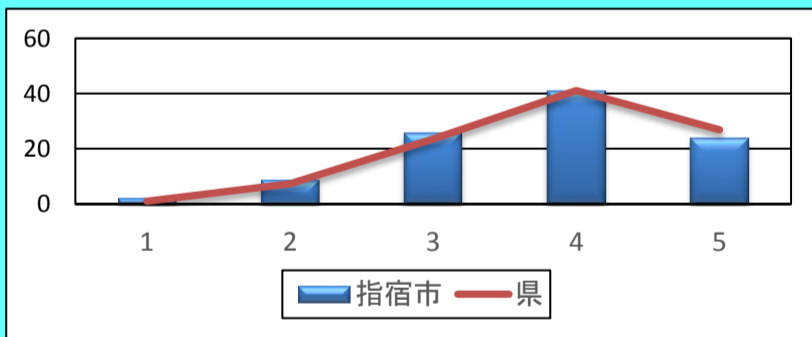
**基礎・基本の問題は、緩やかな改善の傾向
しかし、依然として応用の問題に課題あり**

文部科学省は、全国の小・中学生の学力や学習状況を把握するために、小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を4月に実施しています。指宿市では、平成28年度の調査に全小・中学校が参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果をもとに実態を把握し、学力向上に向けた取組を充実していきたいと考えています。

なお、この調査は小学校6年生と中学校3年生の2教科のみの実施であることから、市内の全児童生徒の学力を示しているというわけではありません。全体的な傾向と課題を分析し、指導に生かせる内容であることを御理解ください。

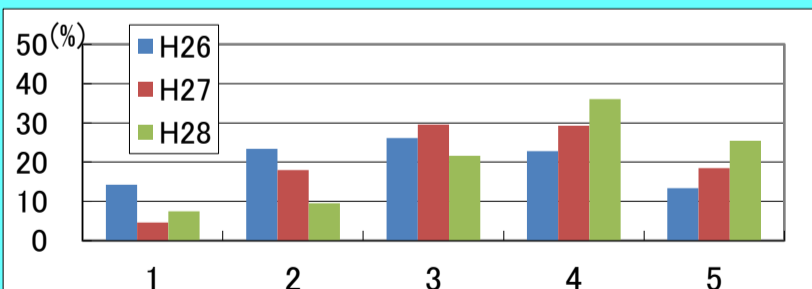
学力調査 (国語A, 算数・数学A) (国語B, 算数・数学B)
A問題 ... 基礎・基本の問題で、主として「知識」を問う問題
B問題 ... 基礎・基本の力をもとにした応用力を問う、主として「活用」に関する問題
学習状況調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面などに関する選択形式の質問調査

《結果及び改善策の見方について》



市全体の平均通過率を5段階に分け、それぞれの段階の集団の割合を棒グラフに表しました。折れ線グラフは、県の平均通過率を表しています。

段階	通過率範囲 (%)
1	0~20未満
2	20~40未満
3	40~60未満
4	60~80未満
5	80~100



H26~28の市全体の平均通過率が比較できるように、5段階に分け、それぞれの段階の集団の割合を棒グラフに表しています。

段階	通過率範囲 (%)
1	0~20未満
2	20~40未満
3	40~60未満
4	60~80未満
5	80~100

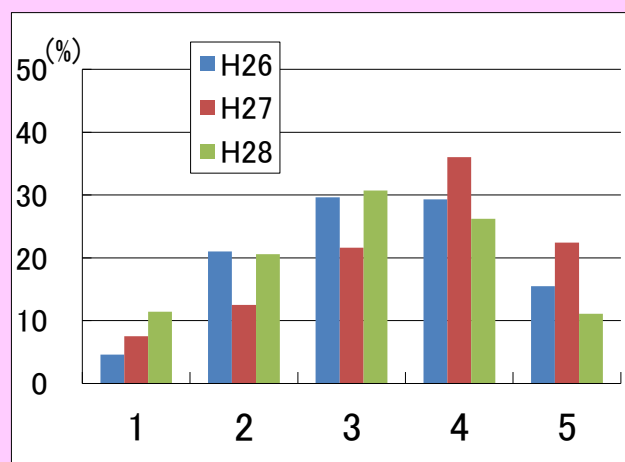
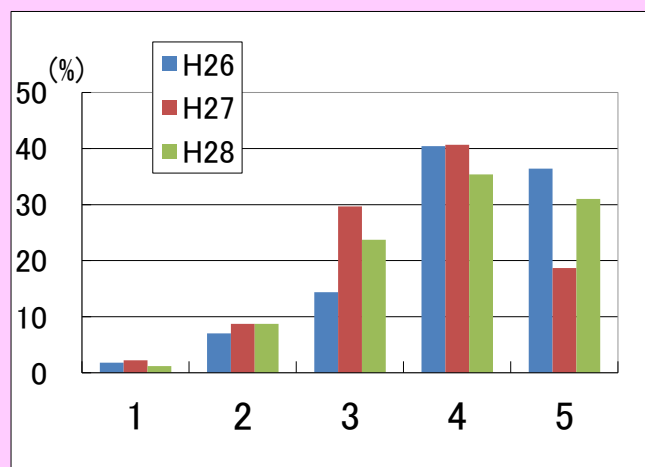
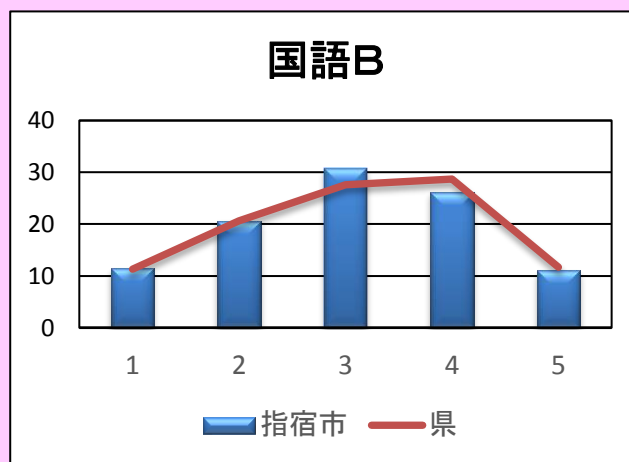
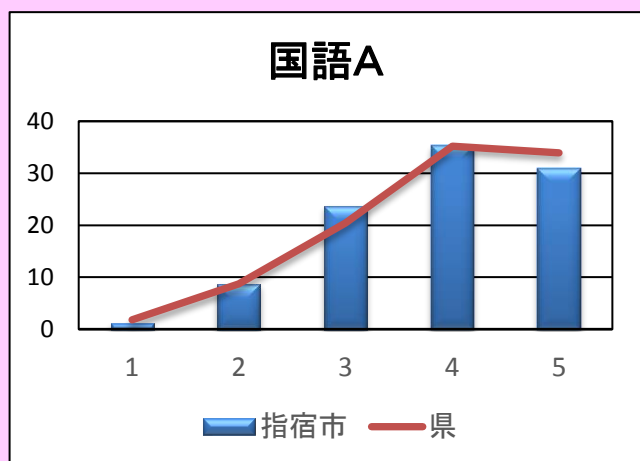
- ◆ 傾向
- つまずいている設問及び課題
- 改善策

グラフについての分析や傾向を簡潔に述べています。また、該当教科でつまずきのある設問を挙げ、課題を示しています。

今後の改善策を、小中学校のそれぞれの最後に述べています。

学力調査の結果 《小学校》

国語



◆国語Aにおいては、評定4と5の児童が約70%です。下位層への指導が必要です。

◆国語Bでは、評定3以下の児童が60%以上になっており、下位層が多い。

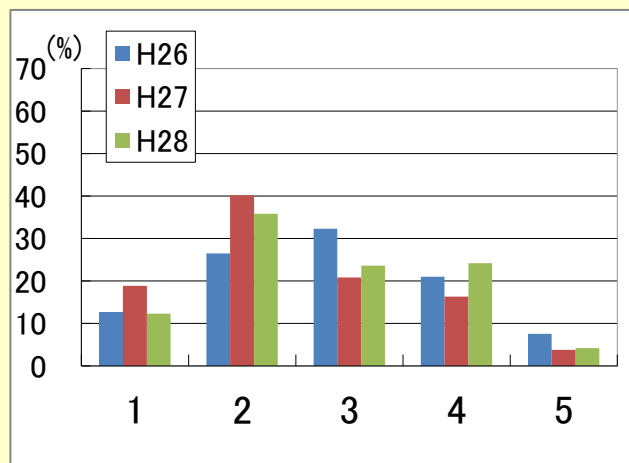
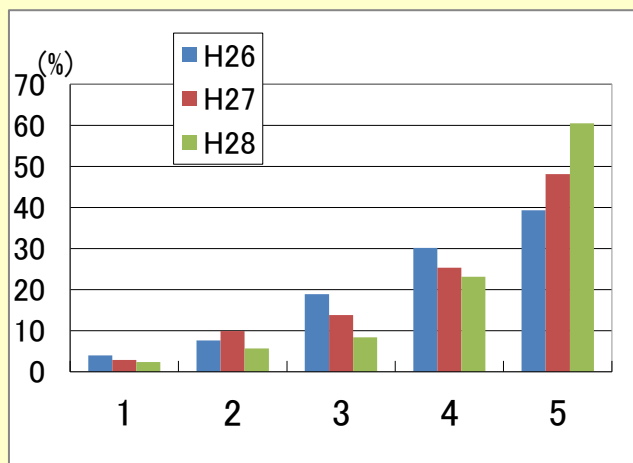
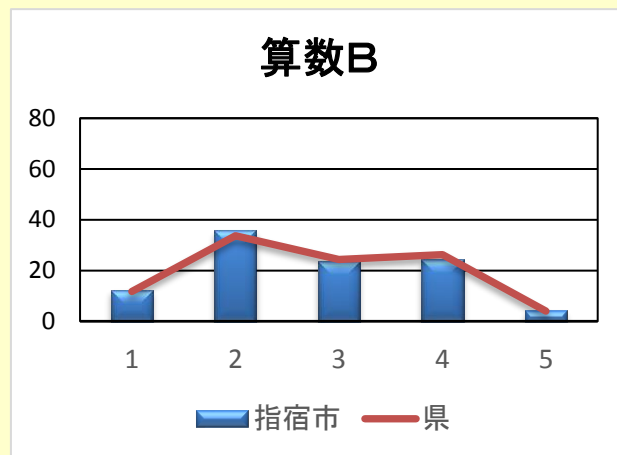
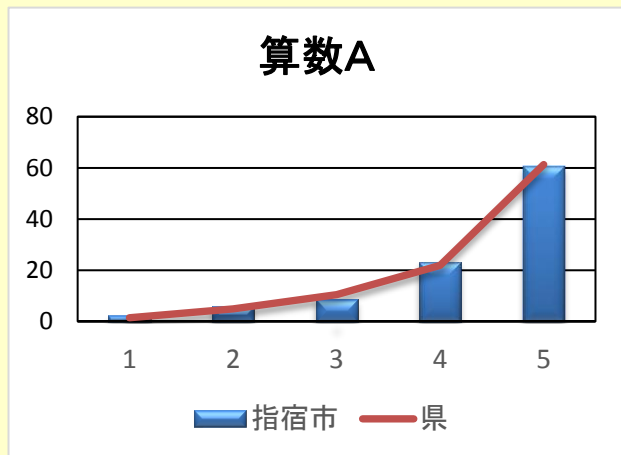
●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについて課題があります。

●ローマ字の促音や拗音の読み書きについて課題があります。

●意図や目的に応じて、自分の考えを整理したり、書いたりすることに課題があります。

学力調査の結果 《小学校》

算 数



◆5段階の分布では、算数Aは評定5や4の児童が80%以上であり、向上しています。算数Bでは、評定2の児童が最多であり、下位層の多い傾向が見られます。

●小数の除法の計算に課題があります。

●1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係の理解に課題があります。

●出した答えやグラフから読み取ったことの理由を記述することに課題があります。

学力調査の改善策 《小学校》

国語

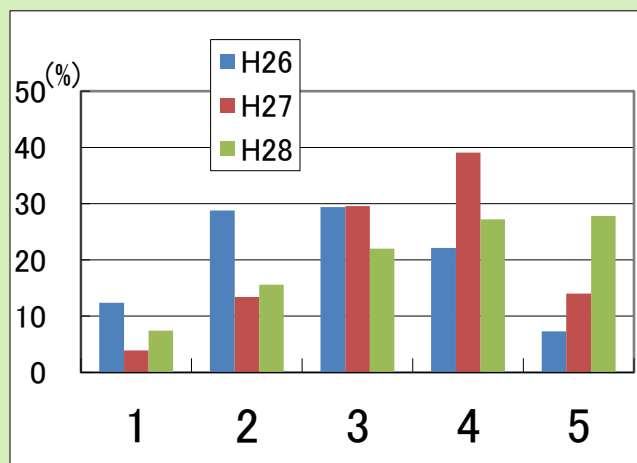
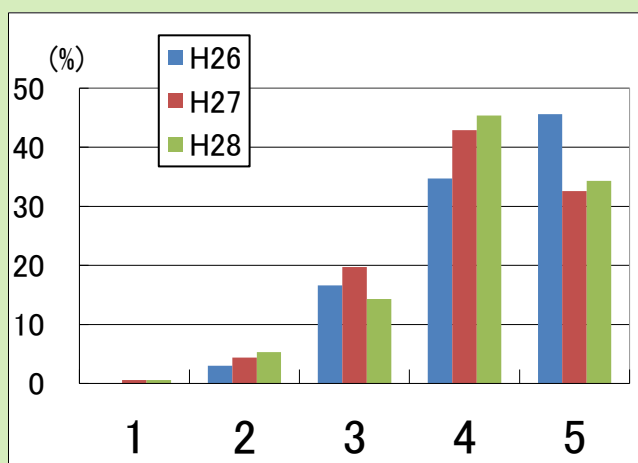
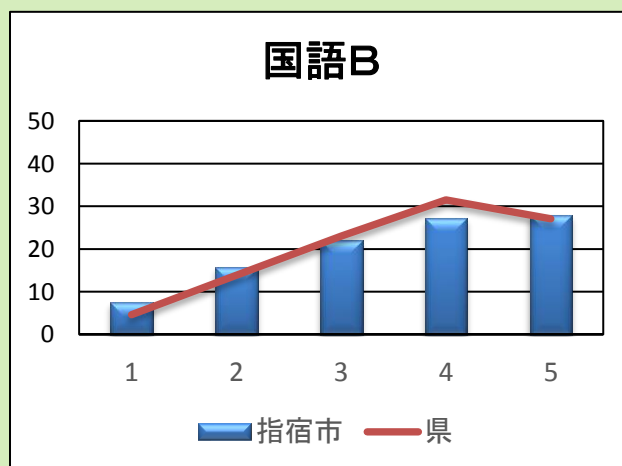
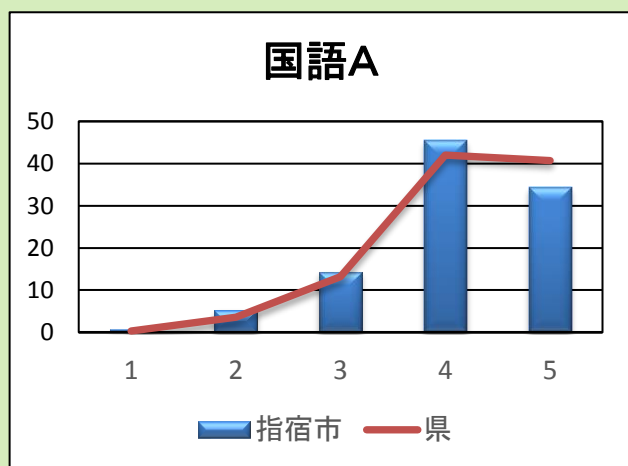
- 学習した漢字を日常生活を通して、確実に習得することができるような機会をつくる必要があります。
- 漢字を正しく読んだり書いたりさせ、語彙を広げるために、国語の学習だけではなく、他の教科でも辞書を積極的に使わせる習慣を身に付けさせる必要があります。
- 平仮名をローマ字で書いたり、ローマ字表記を正しく読んだりさせるために、他教科等でもパソコンを使用した学習を取り入れ、ローマ字表記にふれる機会を増やす必要があります。

算数

- 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、計算の仕方について考えたり、結果を確かめたりする学習が必要です。また、出した答えについて、説明できるようになることが必要です。
- 学習した計算を日常生活の中で活用することができるような機会をもたせる必要があります。
- 小数の除法の計算において、除法の性質や既習の計算を活用して計算の仕方を考えるような学習が必要です。
- 日常生活の事象を表やグラフで表すよさを実感させたり、解決したい問題について、資料収集や分類整理し表やグラフに表すなどの学習が必要です。

学力調査の結果 《中学校》

国 語



◆5段階の分布では、国語Aは、評定5や4の生徒が80%を超え、定着が図られています。

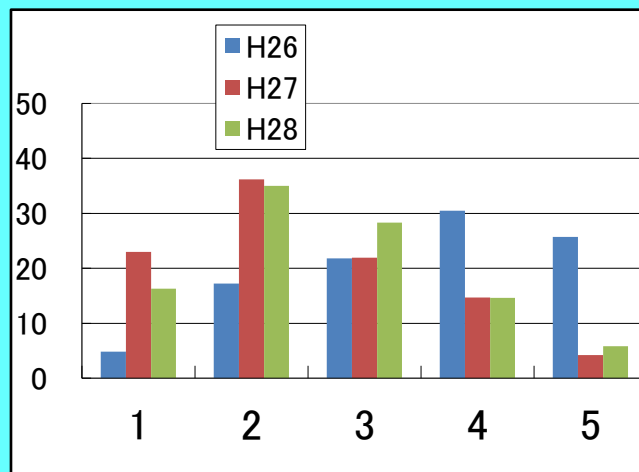
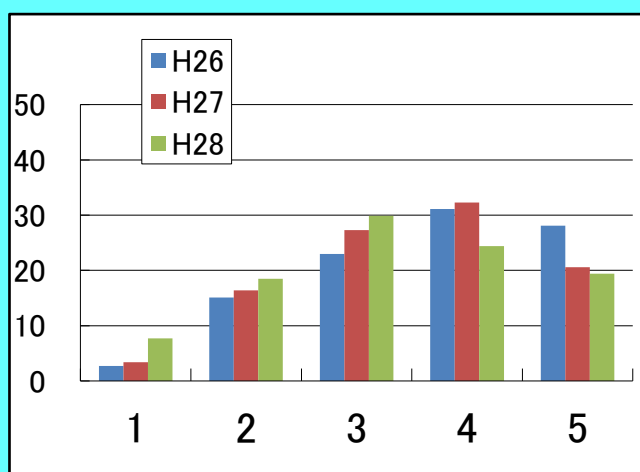
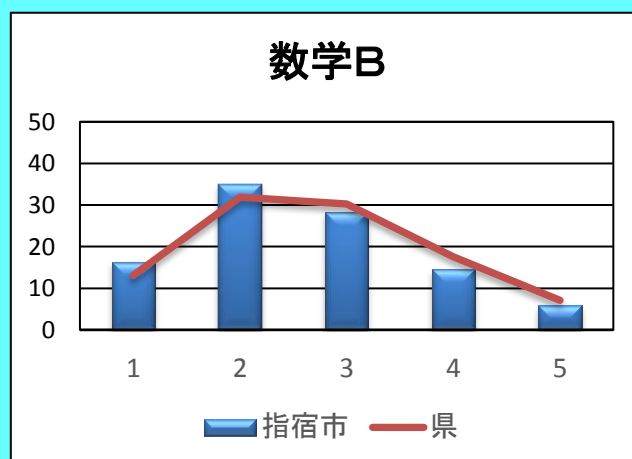
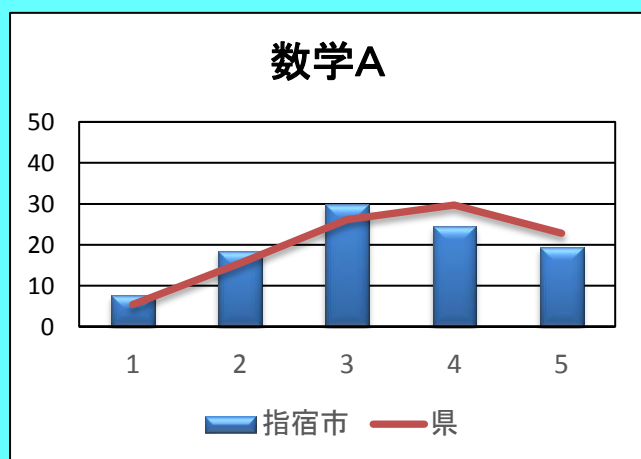
◆国語Bは上位層が少なく、下位層が多い傾向が見られます。

●用いられている表現の工夫(技法)について理解することに課題があります。

●文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉えることについて課題があります。

学力調査の結果 《中学校》

数 学



◆数学Aにおいては、評定3の生徒が最多となっており、基礎・基本の定着が必要です。

◆数学Bにおいては、評定1と2で全体の50%を超えています。活用力を身につけさせる必要があります。

●外角の和や合同条件、証明など、図形領域における知識・理解に課題があります。

●平面図形の運動から空間図形ができることへの理解に課題があります。

●反比例の関係や、関数を式で表すことに課題があります。

学力調査の改善策 《中学校》

国語

- 話すことに関しては、聞き手の立場や考えを具体的に予想して内容を工夫したり、効果的に伝わるように構成を工夫したりする学習が必要です。
- 文脈における語句の意味を理解させるために、その語句のもつ一般的な意味と文脈における具体的、個別的な意味を読み取る学習が必要です。
- 話の内容や展開によって、自分の考えと比較させるために、ペアやグループでの活動を設定し、互いの主張や根拠を確かめるような学習が必要です。

数学

- 立体図形の構成や平行線や多角形の性質を理解させるために、具体物やパソコンを使い観察や操作をさせる学習が必要です。
- 証明の問題に関しては、仮定から結論、結論から仮定、の両方から考えて証明する学習が必要です。
- 導き出した答えについて説明できるようにするために、処理の手順を数学的に考えたり、答えまでの過程を振り返る学習が必要です。

学習状況調査の結果及び分析

「規則正しい生活
をしています」

「将来の夢や目標をもっていますか？」

小学校、中学校ともに夢や目標をもっている子どもは、全国よりも多いです。

夢や目標は、学習意欲の原動力になります。日頃から夢や目標について話題にし、意識することが大切です。



小学校は、朝食や起床・就寝時刻など、規則正しい生活をしている子どもは全国や県平均並みでした。しかし、中学校では、生活リズムが不規則な生徒も見られます。

心身の健康は、学習の基本です。規則正しい生活を心がけましょう。

「地域の行事に参加していますか？」

小学校、中学校ともに地域行事によく参加しています。体験的な活動を通して大切なことをたくさん学んでいます。



「スマートフォンやインターネットなどに使う時間はどうでしょうか？」



小学校、中学校とも、スマートフォンでゲームやインターネットをする時間は、県や全国より少ない結果です。しかし、年々、時間が増えていく傾向にあります。

まずは、家での時間の使い方について家庭で話し合ひましょう。そして、家庭学習の計画を立てて、学習時間を確保するようにしましょう。

「家庭学習の状況はどうでしょうか？」

学校の宿題をする子どもは、小学校、中学校ともに増えています。「復習」には小中学校ともによく取り組んでいます。しかし、「予習」に関しては、中学校での取組が少ないようです。また、与えられた宿題だけではなく、学校で学習したことから興味・関心を広げ、自分から楽しんで学習に取り組むようにしましょう。

